

# 学校図書館だより

令和7年2月7日 杉並区立高井戸中学校図書館発行 学校司書 山内麻央 vol.10

## 【新聞スクラップコーナーが、期間限定で登場】

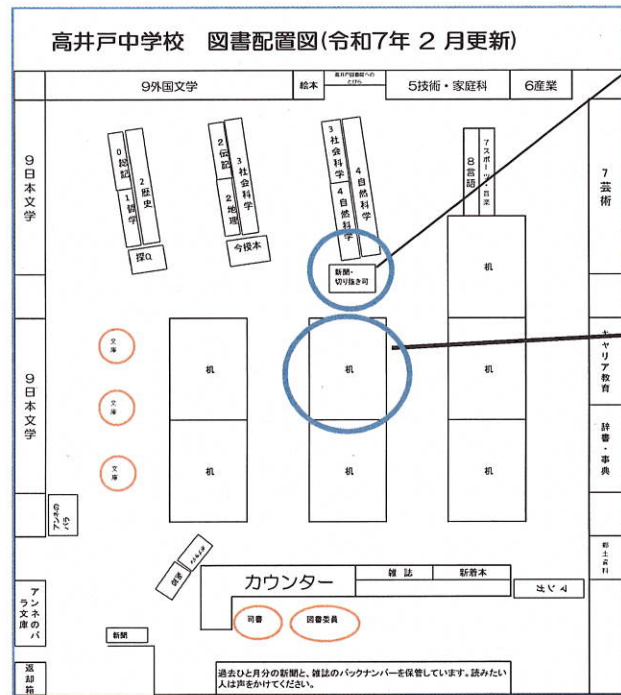
1年・社会科・小野先生の課題で、新聞記事集めが出ていますね。新聞記事は、学校図書館の新聞からも集めることができます。作業しやすいように、切り抜きしていい新聞をブックトラックにまとめました！

2年生に向けて、新しい取り組みをします。



教室(自宅)にある新聞を活用し、  
これまでに学習した内容に関連する  
新聞記事を見つける。  
↓  
ニュースに触れる習慣をつける  
世の中への関心を高める  
学校図書館に寄付し、ナソキで活用

新聞記事集め



提出期限の**2/28(金)**まで、  
こちらの机は、  
**新聞記事集めの優先机**  
にします



ハサミ、ノリ、筆記用具、  
社会科の教科書を準備  
をしています。  
昼休みと放課後に作業  
ができます。

## 【後期図書委員会の活動】

図書委員は、昼休みの貸出当番や学級文庫の管理の他、学校図書館に来たくなるような企画を4つのチームに分かれて行っています。そのチームのひとつが、高井戸図書館と合同で企画を考えました。今企画では、高井戸図書館が発行している「高井戸YA新聞」の臨時増刊号を作成しました。限られた紙面の中で、いかにして読みたいと思われる文章を書くのか、みなさんにわかりやすく伝えるようにと、何度も何度も手直した文章は、ぜひとも全校生徒のみなさんに読んでほしい！ということで、掲示に加えて、この特別号はこのおたよりの裏面に掲載しました♪

高井戸図書館の司書、  
黒澤さん、齋藤さんと打ち合わせ  
の様子。



ヨミタイガー



カラー、A3判の高井戸図書館YA新聞は、特2教室前と高井戸図書館への扉にあります。高井戸図書館のYAコーナー前のゴーゴーメールの柱にも掲示されています。

「ゴーゴーメール」は、高井戸図書館にある中高生専用の掲示板です。自分が読んだ本の紹介や、図書館への質問、時には悩み事などが書かれています。図書館の方から返事がくることも！楽しい交流の場になっています。



高井戸YA新聞は、  
季刊発行☆



ゴーゴーメールのキャラクターゴープルくん

ゴープルくんと、ヨミタイガーはYA新聞にも登場！裏面で探してみてね



臨時  
増刊

# 高井戸中学校図書委員おすすめ本

高井戸中学校図書委員会とのコラボレーション企画！ 図書委員会のメンバーの好きな本、おすすめ本を紹介します！

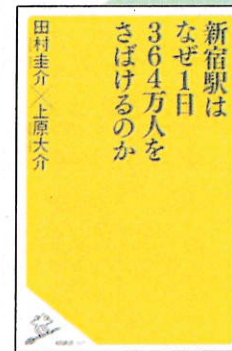
## 『10文字ホラー 1』



この本はたった10文字のみで構成された「世界一短い怪談」です。短いからこそ読む側は想像力を働かせて読む必要があります。そうすれば、一文字一文字に込められた繊細で綿密な表現が、奇妙で奥深い、ゾッとするような恐ろしい世界へあなたを導いてくれるでしょう…。

氏田 雄介/編 星海社

## 『新宿駅はなぜ1日364万人をさばけるのか』



新宿の地下通路に存在する「ダンジョン」とは？ 新宿地域には「新宿」の名がつく10もの駅があり、1日に364万人をさばっている。実はこの駅、恐ろしいほどに迷いやすい、まさに「迷宮」なのだ。どこで、どのように、なぜ迷い込むのか？ この謎にターミナル駅に詳しい大学准教授と、大ヒットスマホゲームの開発者が迫る。

田村 圭介・上原 大介/著 SBクリエイティブ

## 『クイズ de デザイン』

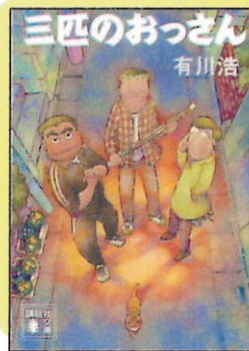
-解くだけで一生使える知識が学べる！-



趣味や仕事など様々な場面で役に立つデザインの知識。この本ではそんなデザインの知識が、実例を使った2択クイズで楽しく分かりやすく学べる！ 暇な時に少しずつ読めるような一冊！

ingectar-e/著 SBクリエイティブ

## 『三匹のおっさん』



この三人のおっさん、やばすぎる！ 「俺たちのことはジジイと呼ぶな。おっさんと呼べ。」 還暦をすぎた三人のおっさん。剣道の達人キヨ、柔道家のシゲ、危ない頭脳派のノリが町内の私設自警団を結成。ゆすり、たかり、悪徳詐欺など、ご近所に潜む悪をたたき斬る！ 痛快活劇ストーリー！

有川 浩/著 講談社

## 『化物語 上・下』



高校3年生のある日、阿良々木 暦は階段を踏み外して落ちてきた同級生の戦場ヶ原ひたぎを助けた時に、彼女の意外な秘密を知ってしまう。その秘密には「怪異」が関わっていた…。様々な怪異に見舞われた少女達と出会い、その怪異にまつわる事件を解決していく物語。

西尾 維新/著 講談社

もう一冊！

## 『ご本、出しときますね？』 -文筆系トークバラエティ-

「小説家さんとのトーク番組、やれますかね？」小説を偏愛する男オーディエンス若林が、小説家の面白さをみなさんにお届けしたいと思い番組を企画した。それがこの本のもととなった『ご本、出しときますね』だ。その番組でくりひろげられた小説家とのカオスでおもしろいトークをお楽しみください。

BS ジャパン・若林 正恭/編 ポプラ社